

社会科 提案授業実践報告

1. 学年と単元 1年～2年 「世界の諸地域」（6）アジア州

2. 単元・題材について

本単元は、通常であれば第1学年で取り扱う内容である（本校でも、本来は第1学年の3月に実施予定だった）が、ちょうどこの頃、新型コロナウイルスの感染拡大による話し合い活動の制限など、学習活動に様々な制約を受けていた。本実践は、「世界の諸地域」の学習の最後の単元として、それまでの学習の成果を活用し、話し合いや協働的な調査・まとめ学習を中心として実施する計画であったことから、単元の学習が始まってから急きょ、歴史的分野と地理的分野のカリキュラムの交換を行い、緊急事態宣言が明けた第2学年の当初に調査学習以降を実施したものである。

世界の諸地域の学習では、「資料を読み取ったことや、学習した様々な知識をもとに、これらを結びつけ、多面的・多角的に問題を考察する力」および、「社会の一員として、広い視野から課題解決の方法について考察・表現し、自分の意思を決定する力」の段階的な育成を図ろうとしてきた。アジア州の学習が始まる前に、それ以前の州の学習成果（各州の地域的特色及び地球的課題）を白地図にまとめ振り返る活動を行った。こうすることで、他地域についての知識を活用して比較しながらアジア州の特色を捉えることが容易になり、深い学びにつながると考えた。また、教師が説明する教材や、生徒が地球的課題を捉える資料に、今世界で起こっていることを多く反映させるようにして、わたしたちが生活する地球で今起こっている課題をどのように解決するかは、決して他人事ではないと意識させる工夫をしてきた。

アジア州の学習においては、このような学習の積み重ねを前提に、生徒が自ら資料を探し、州内の担当する地域（東アジアー中国、東アジアー韓国、東南アジア、南アジア、西・中央アジアのいずれか）について、地域的特色や地球的課題を見だし、分かりやすくまとめ、生徒達自身が「授業」の形でクラスメイトに伝える「生徒授業」の形態をとった。アジア州に関わる内容を取捨選択したり、協働する中でどのような形の授業にするか話し合ったりして、一つの授業の形を作っていく形の探究的な学習を設定することで、生徒が自己調整をしながらより良い授業を模索したり、班員相互に協働することで、主体的・対話的で深い学びが実現するものと考えた。そして、このような一連の授業の後に、「アジア州の各地に見られる地球的課題で、最も早く解決すべきものは何か」考える授業を行ない、生徒授業で活動した班とは違うメンバーの班で話し合った後、個人で考える授業を行い、意思決定する力を育んだ。

なお、アジア州の学習において効果的・効率的に生徒が学習のまとめを作成したり、教師が学習状況を見取ったりできるような工夫として、Googleの「Classroom」およびの「スライド」のアプリを用いた。「Classroom」では、振り返りシート【資料】の配布・回収やコメント機能を用いることで、効果的に情報収集や評価を行うことができた。また、「スライド」を利用することで教師の資料提示や生徒の「生徒授業」での発表に使う資料の共同編集が可能となり、効率的に授業を進められた。

3. 単元の目標／評価規準

（1）本単元の目標

- ① アジア州内各地の地域的特色や「地球的課題」を資料から調べまとめる技能を身に付けるとともに、それらについての知識を身に付ける。
- ② アジア州の地域的特色を、他の州や日本と比較するなど、世界的に見て目立つものは何かという視点から取捨選択するとともに、調べた地域的特色や「地球的課題」相互のつながりや関係を考察し、分かりやすくスライドや授業の説明の中で表現する。
- ③ 与えられた時間の中で見通しを持って調査やまとめの活動に主体的に取り組み、その振り返りを次の学びにむけて活かそうとするとともに、よりよい社会の実現を視野に、優先して解決すべきアジア

州の地域的課題や、自分たちにできる解決につながる方策について積極的に追究しようとする。

(2) 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アジア州内各地の地域的特色や「地球的課題」を資料から調べまとめる技能を身に付けるとともに、それらについての知識を身に付けている。	アジア州の地域的特色を、他の州や日本と比較するなど、世界的に見て目立つものは何かという視点から取捨選択するとともに、調べた地域的特色や「地球的課題」相互のつながりや関係を考察し、分かりやすくスライドや授業の説明の中で表現している。	・与えられた時間の中で見通しを持って調査やまとめの活動に主体的に取り組む、その振り返りを次の学びにむけて活かそうとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、優先して解決すべきアジア州の地域的課題や、自分たちにできる解決につながる方策について積極的に追究しようとしている。

4. 単元の指導と評価の計画

●＝学習改善につなげる評価 ○＝評定に用いる評価

時間	ねらい・学習活動	評価の観点			備考 ★振り返りに関する活動
		知	思	態	
単元の前	【アジア州までの学習の終了後】 ・それまでに学習した地域的特色や「地球的課題」を白地図にまとめる。	○			★ <u>学習内容の振り返り</u> ・授業時間にまとめ方の説明とできるところまでの作業を行い、残りは家庭学習の課題とした。
1	アジア州の自然環境と地形 ・単元の学習の見通しをもつ。 ・アジア州の地形や降水量などの自然環境による地域区分や、形式的な地域区分について理解する。	●			・アジア州の地域区分や気候区分と深く関わる地形をあらかじめ示したワークシートに、地図帳を使い調べて書き込む。
2	アジア州の各地域の調査① ・調査する地域の分担を行う。 ・教科書や地図帳を使い、担当した地域の地域的特色の検討をつける。	●		●	★ <u>振り返りシート</u> に、活動の振り返りと、次回の取り組みへの見通しを記入する
3～5	アジア州の各地域の調査②～④ ・地域的特色や「地球的課題」について調べ、Google スライドにまとめる。	●	●	●	・図書室（司書）を活用する。 ・生徒の思考を深めたり、まとめをより良くする視点から適宜アドバイスをを行う。 ★ <u>振り返りシート</u> に、活動の振り返りと、次回の取り組みへの見通しを記入する

6～7	生徒授業を行う ・20分ずつ、2班が授業を行う。		○	●	★ <u>振り返りシート</u> に、生徒授業の振り返りを記入する ・授業の発表の様子（事象間の関連付け等）やスライドの内容を基に、評価する。
8	生徒授業を行う（前半） ・これまでの活動全体を振り返り、「振り返りシート」をまとめる。			○	★ <u>振り返りシート</u> に、「アジア州の特色や地球的課題に関して」「生徒授業をやってみて」の二つの視点から単元を振り返る。
9	より良いアジア州をめざして ・各地域で様々見られる地球的課題について、どの課題の解決を優先すればよいか考察する。		○	○	・学習班で話し合った後、クラス全体で意見交換し、そのご自分の考えをまとめる。 ★話し合いで用いたワークシートを踏まえ、振り返りシートに自分の考えを書く。

※アジア州の知識については、定期考査の結果を用いて評価する。

5. 生徒の学習の実際

授業中の観察や、振り返りシートの記述から、単元を通して、多くの生徒が学習に意欲的に取り組んでいる様子をみとることができた。これまでもレポート課題等、紙面で調べたことを発表する活動は行ってきたものの、聞き手を意識し資料と口頭説明は初めてだったため、どのようにすれば分かりやすく伝えられるかという点を中心に、生徒は互いに相談しながら試行錯誤していた。

生徒は、最初は班内で○○さんは自然環境を、△△さんは産業を…のように分担し、班内で個別に調べる様子があったが、調査が深まり情報交換を互いにする中で、事象同士が関連しあっていることに気付き、スライドの順序を変えるなど、生徒授業の構成そのものを変更し始める様子がうかがえた。特に社会科を得意とする生徒によるリーダーシップが発揮されていた班では、その生徒を中心に全体構成についてよく練り上げている様子が見られた。

第9時の「より良いアジア州を目指して」では、教師の当初の予想よりも地球的課題についての発言が多く出た。生徒授業の発表で各班が指摘した地球的課題以外のことでも、学習内容を踏まえ「これも地球的課題じゃないか？」と複数の事象を地域の課題として取り上げ、議論している様子があった。

6. 生徒の学習の考察

調査やまとめの時間は図書室で行った。教科書や地図帳等の生徒の手持ち資料だけでは、アジア州の各地域を様々な面から捉えていくのに限界がある。一方、インターネットにばかり頼ることは、正確性という観点からは望ましいとは言えない。そこで、学校司書に協力を仰ぎ、アジア州に関する書籍をあらかじめ用意してもらったり、授業内でアジア州に関連する紀行文を紹介（ブックトーク）して頂いたりするなど、生徒の資料収集の面で様々な形で貢献をいただいた。司書があらかじめ用意した資料を中心に、必要に応じてレファレンスも受け付けることで、生徒は書籍も十分に活用しながら適切に情報を収集しようとしていた。さらに、参考文献の書き方など、本校独自教科である自主研究の成果も活用することができていた。

生徒授業資料の作成においては、「スライド」の共同編集機能を用いたことで、他班の生徒が作成しているスライドも参考にしながら進めることができた。このことによって、他班のスライドの工夫

を参考にしながら自身のスライドを見直し、より良くするべく試行錯誤している様子があった。このことは、授業をしながらの（他者を鏡とした自身の）振り返りを行っていたと言えるのではないかな。

このスライドは、生徒授業後に紙面で印刷し、全員と共有した。このようにしたことで、第9時の際に、各班が指摘した地球的課題以外のことが多く取り上げられたものとする。また、前述の通り、調査が深まり情報交換を互いにする中で、事象同士が関連しあっていることに気付き、スライドの順序を変えるなど、生徒授業の構成そのものを変更し始める様子がうかがえたが、このことから生徒たちの中で、自然、産業、人口、結びつきなどの視点から見出した事象同士は「関連している」という意識をさらに高めることができたものとする。

7. 成果と課題

「探究的な学習」という点から振り返ると、生徒たちが地域の特色を見いだしながら調べ、まとめ、伝えていくという点において、探究的な学習がある程度達成できたものとする。生徒からは、「自分でかみ砕いて理解する必要性を実感した」「また別の機会にも生徒授業をやってみたい」などの感想が振り返りシートによせられた。聞き手を意識して伝える経験を通して、深く理解することや、自ら資料を収集し、情報を取捨選択し、分かりやすく表現しようとする意欲が高まったのではないかと考える。また、事象同士を結び付けて地域的特色や地域の課題を描く力が高まったのではないかと考える。

次に、「振り返り」の視点から考えると、振り返りシートを「Classroom」で配布・回収したことで、シートの配布・回収漏れがないこと、コメント機能を用いることで学習状況の情報収集やアドバイスおよび教師の評価活動が容易に行えることなどの様々なメリットがあった。その一方で、いくらかでも打ててしまうので、要点を絞る記述の指導が必要という、紙媒体を使用している際には気付かなかった課題も明確になった。

その他の点では、班ごとにアジア州の各地域を分担して調査・発表の形を取ったことにより、（教師の側で復習プリントでのフォローは行った）自らが担当していない地域の理解度がどうだったか、また、そのような各地の地球的課題等の背景の理解にばらつきがある中で、第9時の優先順位付けをする活動をしてよかったか？という点が、授業後に気になった。というのも授業をしながら、生徒が様々な「立場」や「視点」で生徒が考えていることに気付いたからである。アジア州以前の学習の中でも、生徒は多様な視点から考察するということの大切さについては理解を深めてきたと考えている。その意味では良かったのが、果たして意味ある「議論」になっていたのか、ただの立場や主張のぶつけ合いになっていなかったか、次回の実践までに改めて検証してみたい。